

第4回EFV国際会議

- 開催日:平成21年11月23日(月)及び24日(火)
- 場所:インド(ニューデリー)
- 主催:インド重工業省、道路交通省、環境森林省、石油天然ガス省、新・再生エネルギー省、都市開発省
- 参加国及び機関:日本、ドイツ、アメリカ、イギリス、フランス、オーストラリア、スウェーデン、インド等の政府、研究機関、自動車製造業者等(日本からは自動車交通局小田環境課長、トヨタ自動車、JAMAよりそれぞれプレゼンテーションを実施。)
- 議題
 - ー移動と環境(EFVの役割)
 - ーEFV(将来のシナリオ)
 - ー代替燃料
 - ーガス燃料テクノロジー
 - ー電気自動車の将来
 - ーEFVのための法規制枠組み
- 会議概要
 - ー自動車交通局小田環境課長より自動車によるCO2削減の取組として燃費基準の制定による取組を説明した。特に大型トラック、バスについての燃費基準は日本が世界で初めて定めたものである。その他、環境性能に優れた車に対する政府の取組として自動車取得税の減税など説明したほか車の進化だけではなく、エコドライブ管理システムといった車の使い方や街も併せて進化させることが低炭素な車社会の実現には必要であると提言した。
 - ー会場の内外では日本の自動車製造業者を含むEFV車両が展示され参加者の関心を引いていた。
 - ー新興国で初めて開催されるEFV会議のホスト国としてインドからは、ラメッシュ環境森林大臣などが冒頭セッションに出席し、EFVの普及のためには政府による調達や規制などの取組が重要であると強調された。なお第5回会議はアメリカで開催される予定である。

Conclusion of 4th EFV conference(抜粋)

- ・ 政府、産業界、消費者団体及び研究機関は、EFVを促進するための適切な政策を正しい場所に導くため協働を継続すべきである。このような政策が分裂し断片化することをさけるために協働していく必要がある。これらの政策はEFVの研究開発、設計、生産などを促進するために短期的、長期的双方の視点から対処する必要がある。
- ・ EFVは、全体の解決策の一端に過ぎない。車の環境への影響に対処する総合的なアプローチが必要だと言うことは何度なく言われてきた。多くのEFVは燃料補給のための追加的なインフラを必要としている。これらはEFVの普及に不可欠であり、このためのロードマップを示すことが重要である。
- ・ 技術的あるいは科学的な観点からはEFVの全体の定義を行うことは困難であるが、考え得る最適な解決法を導く努力は続けられるべきである。

